



古列亞役尔谷斯說

洋学文庫
文庫8
F 21
7





和蘭千八百五十八年秋八月我安政秋七月
 出島ニ於テ海軍ニ等医官ホシベフアンメ
 一ルテルホルト口授
 當今流行ノコレハ亞刺比亞地方ヨリ起リ来
 ル病ニメ既ニ六月頃口支那ニ於テ盛ニ流毒セ
 シト近來渡来ノ亞墨利加英幾利斯等ノ説ク所
 ニ因テ詳テリ然テ是ノ如ク氣中ニ含有セル流
 行毒ハ其道ヲ執テ猶颶風ト同シ一地方流行ノ
 徑過大抵ニ週三週ニ止ム恐クハ今崎陽ニ行
 ハル者北行メ江戸地方ニ及サン歟須ク預メ

注意スヘシ

徴候

偶然腹痛水浮レ加フルニ嘔吐ヲ以テシ直ニ瘦
痢眼目陷リ声嘍シ四肢厥冷胃區煩悶舌上白苔
ヲ頭ハス其下利大約白クシテ少シク粘稠ス胆
液症ヲ兼ル者青綠色ヲ帯フ

徑過預後

速ナル者吐下一時ニ来ル四肢厥冷硬強冷汗ヲ
流レ一吐下ニシテ死ス其緩ナル者ハ初メ浮下
ヲ得ルヲ數行諸症漸ヲ以テ進ニ一日一夜若ク

ハ三日ニシテ死ス病甚シキ者皮表ヲ捫シ捫痕
ノ皴皨速ニ故復セサル者表皮ノ運営ヲ失フナ
リ故ニ治レ難シ此病ヲ預防スルニ平生ノ養生
克ク規則ヲ守リ流行盛ナルニ當テ恐怖从意シ
其常習ヲ変スルヲ莫レ唯克冬熱中ノ操作ヲ避
ケ殊ニ労働過度スルトナカレク食通利慎勤注
意スヘシ劇烈ノ欠液ヲ用エ可カラス不熟ノ食
物蔬菜實ハ其害極テ甚シク慎ズニハ死スルヲ必
セリ宜シク平生習慣セル飲食ヲ用ヒ克ク其度
ヲ守リ過不及ナキヲ尤モ肝要ナリ夜間睡眠ノ

度ヲ注意シ宜ク不整ナラザルベシ且ツ久シク
覺テ深夜ニ至ルベカラス宜ク時限ヲ定メ宵間
ニ安ニ孰ヘシ

処置

アチアチセコレハ其流行屢ナラサルカ故ニ
其療法時昔取行ノ書未タ詳ニスルナシ當今ニ
至テ漸ク能ク万死ヲ一生ニ救得ルニ至レリ速
ニ「キ」ニ「子」ヲ「ピ」ウ「ム」ヲ用ユベシ

其方

キユニ「子」六分
阿片 四分
一ムノ四分
云フベシ

右毎羊時頓服ス持長シ切ヲ奏スルニ至ルヘ
シ機那塩ニ十分ヲウタニユムニ十分忽布満ニ十分常
水ニニ分

又方

機那塩ニ十分硫酸モルヒ子羊ム甘汞ニム
右四包ニ分テ毎羊時一包頓ニ用テ切ヲ奏スル
ニ至ルヘシ機那塩ヲ用ユル処ノ溶劑最モ佳ナ
リ如何トナレハ溶液ハ一道ニ至テ消化ノ勞ナ
ク且ツ速ニ吸収シ血中ニ混スルテ迅速ナル
カ故ナリ毛布或粗織ノ布片ヲ以テ全身ヲ摩擦

シ表皮ノ運営ヲ盛ナラシムヘシ
 布片ニ的列並ラ
 蕪シテ尤佳ナリ
 八九十度以上ノ温湯ニ浴サシメ浴赤動テ表皮
 ヲ摩擦シ発汗スルニ至テハ乾布ヲ以拭ヒ速ニ床
 中ニ卧サシメ被覆セシメ外氣ニ触レシムベカ
 ラス然ト虽モ餘リ長ク浴セシメスシテ克ク一
 日ニ一回ナル可シ
 膽液症ヲ兼ヌルモノハ前条ノ「キナ方中羊ムノ
 甘朮ヲ伍用シ克ク肝臓ノ運営ヲ助クヘシ右ノ療
 方其効ヲ奏スルヲ見ハ直クニ滋養ノ食物ヲ毎ヒ揮発

強壯ノ劑ヲ服サシムベシ
 虎戾羅病藥劑篇
佛蘭西語ニテ虎戾羅ノ「」ヲ
 フルラ「」ク「」ロ「」フ

水劑第一方

綿苕油ニ滴
 忽布滿鎮痛液ニ十滴
 安達扭謨ニ十滴
 淨水ニ
 右合和毎ハ分時服一「」

第二方

硃砂精
 右自二三滴至四五滴以適宜之冷水服之

第三方

纈草根丁幾五十滴 忽布滿鎮痛液三十滴 淨水三勺

右合每八分時服一匕

第四方

綿荅露 桂枝露 各等分

右每四分時服一匕

第五方

香竈精一勺 羊肉豆蔻精一勺

右自三十滴至五六十滴 以適宜之微溫湯

服之

散劑第一方

トーセンビユスミツト三々 綿荅油一滴

白糖三分

右三味調勻分六包 十レ每八分時一包 以白湯或冷水送下之

第二方

桂枝油三滴 丁子油二滴

麻屈涅矢亞三々 糖一々

右二味調勻分為六包 每四分時每一包

第三方

羯布兒 三ム 白糖 六分

右為六包每四分時以水劑第三方送下之

泡劑第一方

加蜜列 撒尔菲亞 梅骨木花

一千八百五十一年独逸国ノ官医トルイ。フ。オ。セ。ン。テ。ル。名。著
コレヲ治法書中ニカミール梅骨木花メンタ葉三味ノ泡
劑ヲ以テコレヲノ預防藥トナシ又將ニコレヲニ羅ラントスニ
ノ前徵アルモノモ示此方ヲ紅用ス

第二方

綿荅葉 纈草 加蜜列

第三方

丁子 搗粒 亞尔尼加花 水楊梅根

煎劑第一方

加斯加利刺 三分 茴香 桂枝

第二方

良姜 胡安子 乾姜

第三方

蘆根 蔞公英根 木香
右三呆水煎臨服加サルアルモニアニ三ム

古列亞改尔谷斯說

跋大正江正

勃微尔著

江戸

宇田川裕琴託

古列亞改尔谷斯ト名ル病東方諸国昔ヨリ多患
 ル病ニシテ土人外人ヲ論セテ老女男女ノ差別ナ
 ク又亮モ前兆ナク卒尔ニ歿ス○其症初起小腹
 臍ヲ繞テ割ク瘧過シ吐氣ヲ催シ夥ク泡沫ヲ糝
 ル水ノ如キ粘液ヲ嘔吐シ又奇ク無キ片ハ是ヲ
 催汗シ且ツ重墜努責甚シ始終腹中痙挛疼痛甚
 ク関節甚ク播製シ手足相牽縋シ干海蝦ノ状ノ

如^カ施^テ脰^ノ筋^トニ及^ヒ全身^ノ四^支行^流シ顔^面臨^シ
凹^ト持^テ二^ノ兩^眼甚^シ又^ニ眼^中酷^ク夕^ニ猛^ニ穉^ニシ^テ白^色ノ
粘^リ液^ヲ流^シ脈^沈小^ニメ指^下僅^ニ按^ス内^腸熱^ヲ
メ燉^カ如^ク大^ノ渴^飲引^常ニ冷^水ヲ呼^ヒ手^ノ飲^益ヲ
叙^テハ煩^躁悶^乱須^臾モ安^カラズ卧^席衣^被恣^テ
擲^去シ或^ハ摸^床撮^空理^識等^諸ノ危^殆虚^極ノ諸^症
症^ヲ現^スルニ至^ル○次^テ眩^暈搖^振ヲ蕪^シ終^ニ
四肢^氷冷^シ引^夕ニ^ニ厥^ノ諸^症ヲ^ヲ蕪^シ數^角弓^反
張^ノ斃^ル
此^病ノ治^方ハ凡^ソ三^種ノ要^訣アリ^一所^謂劇

甚^ノ症^ヲ率^テ鎮^止シ其^燉衝^ヲ消^スルニ在^リ○身^ニ
ニハ既^ニ閉^塞セル皮^表ノ莖^氣ヲメ故^ニ復^セシ
ムルニ^{アリ}○身^ニハ飲^食消^化ノ益^ヲメ本^然常^ニ
度^ノ運^動ニ^復シ過^不及^ナカラシメ又^ソレヲメ
再^登セシムルヲ^キニ^{アリ}
此^病ハ極^テ速^ニ蕪^スルカ故^ニ治^フ施^スモ亦^常
ニ速^{ナル}ヲ要^ス其^病恣^酷夕^峻重^ニレテ僅^ニ半^ニ
時^一時^ニ斃^ル故^ニ効^力他^ニ越^テ輒^夕効^ヲ奏^ス
スル某^劑ニ非^レハ救^フヲ能^ハス○左^ノ方^ハ劇^キ
キ症^率ヲ^復和^スルヲ^屢試^ルニ^而无^遺策

カロメル二十人
 右ノ末トシ左ノ飲液ヲ以テ送下ス
 阿芙蓉液六十滴 薄苛水一ろ
 右ノ劑ヲ与ヘテ左ノ患者ヲ温湯ニ浴セシムルヲ
 雲時ニメ後垂刺吉所トシ合シタルヲ温メ
 テ身体ヲ洗フヘシ○患者天稟多血ナル者ハ影
 ヲ刺給シ少シク昏冒スルニ至ル大灸泡膏ヲ胃
 部ニ貼シ女子泥ノ毳布ヲ両脚ニ貼シ左ノ
 前湯ヲ温メ屢莖漏スヘシ
 加密列花煮湯直置 阿芙蓉液^{四十滴ヨリ六}_{十滴ニ至ル}

如此為スト至吐後登シ厥冷モ速ニ退カサル
 ハ前ノカハメル阿芙蓉液ヲ尚一回与フヘシ
 リニメン^五ムホテ十レカム○ホウ^五ム^{製劑}
 各^名 司^名 碩^破 精^四 朱^昼
 多ク加ヘタル者ヲ摩擦スヘシ尚^峻症退カサル
 者ハカハメルニ^廣香^葛私^多倦^誤或ハ他ノ揮^祭
 ヲ精神ノ^警覺スル^某品ヲ加ヘタル水銀膏ヲ^頭
 胸肺部ニ多ク^摩擦スヘシ
 患者大渴耐ヘ^難キニ^苦ニハ^左ノ^飲料ヲ^時々一
 ニ匙ヲ与フヘシ一頓ニ多ク^飲ルハ^折シテ^鎖

メタル 嘔吐再発スルヲアレルハナリ
止渴飲料方

縮禾煮湯 煎 燒酒少許

以上 藥劑ヲ服スルノ間 溫覆シ冷氣ヲ冒サレ
ヲ要ス右ノ諸方ニ由テ 諸症解散シ 身体固有ノ
溫氣ニ服シ 四肢 潤節ノ 症 寧減スルノ後ハ 腸空
虛セサルカ故ニ 膽液直ニ之ニ 觸レ 利痛スル
アリ故ニ 左ノ下劑ヲ用テ 勉テ 泻下スヘシ

下劑方

カロメル十人 ヤーラウラトル細末

ニ刃或ハ芒硝一
ヲ用テ 大便通利セシ 症ハ 胃腸大ニ 衰弱ス故
ニ 苦果ノ 徒 胃 某 品 按ルニ 垂危 鮮 虛 會ヲ用テ可
ナリ ○ 右ノ 諸方ハ 皆 汝 地 在 苗ノ 政 魯 巴 人ヲ 療
スルニ 用ニ 吾 土 人 咳ヲ 喘云 ヲ 療スルニ 上ノ 加
口メルノ 量ヲ ヤ、 減シテ 可ニ ○ 又 初 發ニ 左ノ
散劑ヲ 用ニヘシ

其方

オスポルシエ
芒 破 谷 羊 交 揮 葭 曲 一 滴 或ハ 二 滴
レソ 製劑 名 取 太 厲 豆
方 中ニ 出ツ

此散劑ハ近世ニ至リ「ウリキウス」常ニ用ユ但
シ予思フニ此劑歐羅巴人ニ用テ効ナキノミナ
ラス土人ト云ヘ此危劇ノ症ニ至テハ此劑ノ能
ク治スル所ニアラス

古列亞改尔谷斯說終

石川梅処按

一千八百十七年印度地方コレラノ病ニ罹リ
死亡スル者過半コシラキ^{右人}甚夕是ヲ患ヘ弘
ク探索シ終驗スル所ト云々其證多ク稀薄ノ粘

液ヲ吐下スルニ初リ漸ク諸症増加シ急速ニ死
亡ニ至ル膽汁ノ沸騰腸歎衝腸脱血ノ類ニアラ
ス血中ニ含ム所ノウエイ液腸中ニ滲々シ崩漏
下利スルヲ以テ酸素欠乏ニ塞素偏勝スルニ由テ
血液自在ニ流利スルヲ能クス粘稠凝結シ一身
ノ萬骸乍チ歇ミ卒厥絶息スルニ至ル
右方腸ノ板轉ヲ一度シ血液運行ヲ活発セシメ
肌表ニ發達シ發汗ニ至ラシムルヲ當
預防第一薄奇葉^{五分}加麥^{五分}列花^{二分}藿香^{三分}
右一點ノ量一茶碗ニ泡シス

症ニ臨ミアルニカ花サルヒヤ御草根水楊梅等
 ラ加フ
 灰子泥痲ノ軽重ニ拘ラス此痲ノ第一ノ午當付
 不可欠モノ心下ヨリ脘下迄肋骨ニハカ、ラ又
 様ニ時ニヨリ脘下ニモ^稀ス下アリ灰子泥多キ
 ホト直レク厚サ一二分ニ至ルヘシ臨メ後痛ヲ
 忍フテ数刻ナレハ覆行ニ至テ吐厚共ニ止ム
 妙ナリ少レキ劇症ヲ覺ル時ハ此藥ヲ与フ
 桂支油ニ隔下子油ハマク子シ止至破確一交
 右六點ニ分十每一時三四點ヲ与フ

臨楸加味スルモノカストレム吐劇キ者ニ
 ヲ止ニサルニ用ユドリセシヒスミット 竜胆
 ホフニシ 甘硝石精 橙皮油 硝砂精 ラウ
 タニム 竜胆精ノ委販痛止ニサル者セイニウ
 テンキテールノ委
 擦方 カンフルフラントウエシ右代用燒所區
 メテ両手ヘ倒ニ摩擦スルヲ頻々ニスヘシ尤劇
 キ者足脚ニ施メ直レシ吐スル者ニ揮毫衝動ノ劑
 フ与ヘ吐止セサルヲ妙トス

流行病ベスト駆除ノ方

清冷水一杯 砂糖少く加へ服用

唐室

杜松子 砂糖 二杓大ニ量ス

蘭油

粗^ル油^ル

右ノ油^ルニ無キ時ハ胡麻ノ油ニテ

毛^ル右^ル油^ルヲ區ノ全身ニ塗リ込高一病瘥タレ

伊東修理大夫様御儒者

安井仲平之

此ノ方ハ上ノ方ニ似テ

ハ

干時安政五年八月廿一日

伊東昇迪

祐直